

バイオ医薬品業界の エボラ出血熱のワクチンと治療薬の開発における取り組みについて

- ・10年以上も前からエボラ出血熱のワクチンと治療薬の開発に取り組んでいる
- ・熱帯病の研究に提供している資金の規模は世界第2位

～PhRMA米国本部 カステラニ理事長によるニューヨークタイムズへの投書より～

※当資料は、現地時間 2014 年 11 月 11 日に「ニューヨークタイムズ」に掲載された PhRMA 米国本部カステラニ理事長の投書を翻訳したものです。

編集長殿

11月4日付、「WHO エボラワクチン開発の遅れを強く非難」と題した貴紙記事は、WHO(世界保健機構)事務局長の発言を引用し、「これまでバイオ医薬品業界は、エボラ出血熱など、主として貧しい国々に影響を与える疾病の治療薬やワクチンの研究開発を後回しにしてきた」と報じていました。

しかし、これは誤解です。バイオ医薬品業界はそのような研究開発に投資してきました。そして、その投資によって、世界の公衆衛生を脅かす喫緊の課題との戦いも大きく進展してきたのです。実際、製薬企業は10年以上も前からエボラ出血熱のワクチンと治療薬の開発に取り組んでおり、少なくとも2種類の臨床試験がまもなく始まろうとしています。

「顧みられない疾病のためのイノベーションに対する国際的資金調達機関(Global Funding of Innovation for Neglected Diseases)」の2013年度報告書では、バイオ医薬品業界が熱帯病の研究に提供している資金の規模は世界第2位で、米国立衛生研究所(NIH)に次ぐ大きさである事実が報告されています。つまり、バイオ医薬品業界は、ゲイツ財団やEU、その他全ての国を上回る資金を提供しているのです。

エボラ出血熱の流行を巡る状況は日々変化しています。そのような不透明な状況において、このエボラ出血熱という恐ろしい病に立ち向かい、勝利するためには、全ての関係者がこれまで以上に力を合わせて臨まなければなりません。

2014年11月5日(※投稿日)、ワシントン
米国研究製薬工業協会
理事長兼 CEO ジョン・J・カステラニ

- 11/11付カステラニ理事長の投稿記事原文(英文)については、下記よりご覧ください。
<http://www.nytimes.com/2014/11/11/opinion/big-pharma-and-ebola.html?ref=opinion>
- 11/4付 “WHO、エボラワクチン開発の遅れを強く非難”と題した記事(英文)については、下記よりご覧ください。
<http://www.nytimes.com/2014/11/04/world/africa/ebola-cure-delayed-by-drug-industrys-drive-for-profit-who-leader-says.html>
- 「顧みられない病気のためのイノベーションに対する国際的資金調達機関(Global Funding of Innovation for Neglected Diseases)」による2013年度のレポート(英文)については、下記よりご覧ください。
http://www.policycures.org/downloads/GF_report13_all_web.pdf

【本件に関するお問い合わせ】
米国研究製薬工業協会(PhRMA)広報事務局
(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

TEL:03-3291-0118

FAX:03-3291-0223

E-mail:phrma_pr@jc-inc.co.jp

担当:村田/青木/齋木/三谷

〒101-0065 東京都千代田区西神田 1-3-6 ウエタケビル 4F